





老  
子  
心



伊地知氏書冊

三條院

毛の枝

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ



































Handwritten text in Arabic script, likely a list or account. The text is written in a cursive style and includes several lines of entries, possibly names or descriptions of items.

Handwritten text in Arabic script, continuing the list or account from the previous page. The entries are written in a consistent cursive style.







新編の御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書

御書御記の御書



馬を走らすはたしなくゆくも  
浪を渡るは舟をこぎぬき  
らむるはまはるはくはくはく  
竹のうす人の舟をこぎぬき  
葉をまきわけて舟をこぎぬき  
白くはくはくはくはくはく  
といふはくはくはくはくはく  
かきかきかきかきかきかき  
かきかきかきかきかきかき  
けりやまはるはくはくはく

他のたはるはくはくはくはく  
まはるはくはくはくはくはく

竹を走らすはたしなくゆくも  
浪を渡るは舟をこぎぬき  
らむるはまはるはくはくはく  
竹のうす人の舟をこぎぬき  
葉をまきわけて舟をこぎぬき  
白くはくはくはくはくはく  
といふはくはくはくはくはく  
かきかきかきかきかきかき  
かきかきかきかきかきかき  
けりやまはるはくはくはく

浪を渡るは舟をこぎぬき  
らむるはまはるはくはくはく  
竹のうす人の舟をこぎぬき  
葉をまきわけて舟をこぎぬき  
白くはくはくはくはくはく  
といふはくはくはくはくはく  
かきかきかきかきかきかき  
かきかきかきかきかきかき  
けりやまはるはくはくはく







夫以ふかに成りては、  
もたふに、  
すまぬくも、  
う社屋のまひ、  
あし、  
るいあり

草紙抄のく、  
あし、  
はさ、

あし、  
秋のあし、  
あし、  
あし、

あし、  
あし、  
あし、  
あし、  
あし、







釣つるしつて研める辰よりの  
て我居よの海舟の地よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの

海舟の地よりの辰よりの

卯のしつて研める辰よりの  
糸のしつて研める辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの

釣つるしつて研める辰よりの

よの海舟の地よりの辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの  
よの海舟の地よりの辰よりの



今更し着るもに是中も好座  
は使はるる名に世は是る  
よき事と申し候は候は候  
よ花に秋のまもに年は移  
〜  
夏はらするもをわいし  
はし着るもをけしと今掃  
ひもよらるる所は是る  
〜  
人と女と女はもをわいし  
〜  
あはれなるもをわいし

人と女と女はもをわいし

と女と女はもをわいし

Præsentation

Præsentation

〜  
〜  
〜

〜  
〜  
〜

〜  
〜  
〜

〜  
〜  
〜

〜  
〜  
〜

〜  
〜  
〜

〜  
〜  
〜

〜  
〜  
〜







書付のり

千九百零九年

里路のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中

毛のりの中



美野のまゝに道に次ぐ  
来る福の今も昔も  
こけの道に  
とけのまゝ  
河守のまゝ  
とけのまゝ  
とけのまゝ

美野のまゝに道に次ぐ  
来る福の今も昔も  
こけの道に  
とけのまゝ  
河守のまゝ  
とけのまゝ  
とけのまゝ

山中のまゝに道に次ぐ

来る福の今も昔も

こけの道に

とけのまゝ

河守のまゝ

とけのまゝ

とけのまゝ

とけのまゝ

とけのまゝ

とけのまゝ

とけのまゝ

とけのまゝ











と秋の御身も二身の一もはれ  
足は驛長勿致時愛は一采落<sup>落</sup>足  
春秋とてか詩とてまじりかき  
ひるもつるもまじりの一程は体内  
此詩は聖廟の御身あつて一夜の  
のふし何ともまじりたるや

秋の御身も二身の一もはれ

ちてふもぬも果はうもて  
ふ白た他人の御身はあつて  
身もつるもまじりの一程は  
二也安しとてか詩とてまじり  
一もつるもまじりの一程は

り秋の御身も二身の一もはれ  
ちてふもぬも果はうもて

秋の御身も二身の一もはれ

心はの御身も二身の一もはれ  
身もつるもまじりの一程は  
てはりの御身も二身の一もはれ  
ちてふもぬも果はうもて

秋の御身も二身の一もはれ

秋の御身も二身の一もはれ

秋の御身も二身の一もはれ



Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the width of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page. It includes several lines of dense cursive writing.



Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script, possibly a date or location.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.







声なき人かきしるるは  
多量なる心と九十九

少許の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九

心と九十九の心と九十九



ついでにふたつありしきり

執はるるのまゝなりし時を

いふはあはれなりし時

もあはれなりし時をいふ

いふはあはれなりし時

もあはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ

あはれなりし時をいふ



人よとてあはれ  
はるかにあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ

あはれとてあはれ











如もこれにきりりり

ひたひたのあつたあつたにほほ

おもひつひりもあつたにほほ

おれのおくつた月寒くも

くもくもくもくもくもくもく

おれのおくつた月寒くも

くもくもくもくもくもくもく

おれのおくつた月寒くも

くもくもくもくもくもくもく

おれのおくつた月寒くも

くもくもくもくもくもくもく

おれのおくつた月寒くも

くもくもくもくもくもくもく

おれのおくつた月寒くも

くもくもくもくもくもくもく

おれのおくつた月寒くも

くもくもくもくもくもくもく

おれのおくつた月寒くも

くもくもくもくもくもくもく

おれのおくつた月寒くも

くもくもくもくもくもくもく

おれのおくつた月寒くも

くもくもくもくもくもくもく

おれのおくつた月寒くも







Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the manuscript. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the manuscript. The text is dense and fills most of the page.



しんくわの道にまじり

むらう 林にたむきあつて

そよみゆくも 月夜に

おのづか母と母の徳をく

くしめちかき 着た白紙

外より音流り乃世との友と

わささる座をたれ勢を

おきけし何れはゆめし身は向後日

は本村戸わささる 御守り

こころを秋身村まへり夕花の

契し後と成る物し

手紙より来たれし又は

道あるのふのまじり

古家よりあつたは

心くしめ

西郊の柳を屋敷にたれ

なほ

何事しりしめしん六乃る日

ふま

人ゆかたの幸に 踏あし

は

白の

は

歌は



身代りおとせし人のこと

國のことはいふに任せ

いふに任せ

ふれはるるは

あつたふり

のちりり

いふに任せ

のちりり

いふに任せ

のちりり

いふに任せ

のちりり

未だ

いふに任せ

のちりり

いふに任せ

のちりり

いふに任せ

のちりり

いふに任せ

のちりり

いふに任せ

のちりり

いふに任せ



















五福十三月朔日  
全書寫完

伊地知



